

R5年度 美術館評価調書

A 優れた作品の収集と適切な保管

近代美術館

【基本的運営方針】

5つの収集方針に基づいて、優れた作品を計画的に収集し、系統的で個性的なコレクションを形成します。併せて関連資料の整備を進めます。また、IPM(総合的有害生物管理)の進展や当館施設設備の特色と老朽化をふまえながら、保存環境を整備するとともに、作品の修復を計画的に行うなどしながら、作品を適切に保管します。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
優れたコレクションの形成	<ul style="list-style-type: none"> ●美術の調査研究と収集方針に基づいて、美術史の視点からコレクションの欠けた部分や手薄な部分を洗い出し、それらをリストアップした収集計画を作成・更新する。 ●リストアップされた作品の入手可能性に関する情報を収集し、購入や寄贈により計画を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●R5収集作家作品候補一覧を集約し、学会会議へ提出した。本リストを今後、加除しながら収集計画の基礎資料とする。 ●購入では、収集作品選定評価協議会での承認を得て、アイヌアート(彫刻)1点を初めて収集することができた。 ●受贈では、美術作品選定会議での承認を得て、収集方針のうち「現代の美術」に含まれる油彩2点、「北海道の美術」に含まれる日本画1点、油彩1点、写真156点を収集した。
所蔵作品の適切な保管	<ul style="list-style-type: none"> ●IPM(総合的有害生物管理)に関する研究の進展に学びながら、ひと月に1回程度の収蔵庫内清掃や虫トラップの設置・観察・分析等を通し、適切な展示・保存環境を保持する。 ●保存と活用のために修復が必要な作品のリストを更新し、計画的に修復を進める。 ●事務室、図書室等の狭隘化に伴い、図書の整備及び映像資料、過去の展覧会資料のデジタル化・整理に努める。 ●二次資料の幅広い活用と公開を目的とするアーカイヴ(記録・資料保管システム)のあり方について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●IPMを適切に実施するため、通年で捕虫監視を行うとともに、文化財害虫を減らすため収蔵庫等を毎月1回清掃した。その結果、害虫の早期発見と対処、捕虫数の減少が実現した。 ●修復では、野外彫刻3点、彫刻1点、油彩2点、版画3点の修復を実施した。 ●図書資料増加に伴う収納場所の確保のため、資料の再整理を進めるとともに重複資料を処分した。 ●各種資料のデジタル化・整理を推進すべく、必要な機器を調査・購入し、作業を行った。
コレクションの効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ●前年度に新たに収集した作品を、「新収蔵品展」により道民に紹介するほか、「この1点を見てほしい。」では1点に焦点を当てて作品の魅力深く掘り下げる。また、年間を通じて近現代のガラス工芸を展示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●R4年度に新たに収集した作品を「新収蔵品展」で紹介したほか、「この1点を見てほしい。」では北海道ゆかりの日本画家・山口蓬春の《向日葵》をとりあげ、北海道美術に関する研究成果を展示した。 ●開館状況にかかわらず常設展示室内での展示作業が行えるよう、常設展示室の一部を改修して来館者には影響のない作業用通路を設けた。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価		総合評価
			設定の考え方							
優れたコレクションの形成	収集方針に基づく収集活動 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	収集方針「北海道の美術」において手薄であった戦後の美術を充実させるとともに、アイヌアートの収集も実現した。	B
所蔵作品の適切な保管	所蔵品データベースの整備率	100%	100.0%	R4年度末までに収集した全作品のうち、R5年度末までにIBシステムに情報登録を予定する作品の割合	100.0%	100.0%	①	a	新収蔵作品を含めデータの登録は完了した。ただし、過去データの一部に誤りが散見されるため、年次計画を立て、逐次点検を行う。また、保存環境の維持と収蔵作品の計画的な修復を実現した。	
	適切な保管環境の維持と所蔵作品の計画的な修復 [定性]	—	—	—	—	—	①	—	—	
コレクションの効果的な活用	コレクションの活用の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	展示、教育普及事業、情報発信等、美術館活動の多くの場面に活用することができた。	

R5年度 美術館評価調書

近代美術館

B 多彩で特色ある展示活動の充実

【基本的運営方針】

収蔵作品を紹介する「近美コレクション」展を、当館の個性を強く発信するとともに、コレクションをすべての人々に向かって開く最も重要な機会と位置づけ、コレクションの魅力や調査研究の進展を伝えます。また、「特別展」では、様々な鑑賞のニーズに応えるとともに、人間と文化の多様性について理解を深める機会となるように、幅広い時代と分野のアートを紹介します。併せて、個性の異なる誰もがアートに親しむことができる展示について研究を進めます。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
多様なニーズに応える展示会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ●国内外の優れた作品を紹介する「特別展」については、江戸時代の浮世絵、近現代の油彩・日本画・陶芸、アイヌアート、メディア・アート等、幅広い時代・地域・分野に渡る6つの展示会を開催する。 ●「近美コレクション」については、2018年から調査を始め2022年に受け入れを完了した526点に及ぶ友田多喜雄コレクションをまとめた形で展覧する「友田コレクションの精華 魅惑の版画と詩」や、アートギャラリー北海道事業として倶知安町にある小川原脩記念美術館の所蔵作品の紹介、近現代のガラス工芸の展示等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●特別展では、当館コレクションを生かしつつ近現代の美術動向を握り下げた「トリック×イリュージョン!」「揺さぶる絵-変貌する日本画のイメージ」「札幌国際芸術祭2024 FLAGILE」、またアイヌ文様の「モレウ(渦巻き)」をテーマに、現代のアイヌアートを紹介する「AINU ART-モレウのうた」等、5つの展示会を開催した。 ●近美コレクションでは、「友田コレクションの精華 魅惑の版画と詩」において詩人・友田多喜雄氏の活動と氏が当館に寄贈した版画を紹介。また「昭和のガラス」や「現代ガラスのオノマトペ」等3つのガラス展により、年間を通じてガラスを展示した。さらにアートギャラリー北海道「小川原脩記念美術館コレクション展」では、同館と当館のコレクションをあわせることで小川原脩の足跡をより深く紹介した。
観覧者拡充のための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●チラシやポスターなどの紙媒体のほか、道立美術館ポータルサイト、ホームページ、ツイッター、フェイスブックを通じて、展示会情報や見どころを丁寧に発信する。 ●アイヌ民族文化財団、札幌国際芸術祭実行委員会との共催展においては、各団体との連携により広報の充実やインバウンド対応の強化に取り組む。 ●人気のある「だまし絵」を取り上げた「トリック×イリュージョン」展や、近美コレクションにおけるワークシートの配布などによって、子どもたちにも美術に親しむ機会を提供する。 ●障害者、子どもを対象とした展示について研究を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●チラシやポスター等のほか、ホームページ、X(旧ツイッター)、フェイスブックを通じ、展示会情報や見どころを細やかに発信した。 ●「AINU ART」展では、出品作家によるアーティスト・トークのほか、刺繍やトンコリ、ムックリの体験会、札幌国際芸術祭との連携トークを実施。「札幌国際芸術祭」においても、小学生を対象に日本教育公務員弘済会共催による「あべ弘士さんと作る!北極の動物モビール」を行った。 ●近美コレクションでは2期にわたって作品鑑賞のための7種類のワークシートを展示室内に配置。また、次年度の活用に向けて新たに3種のワークシートを作成した。 ●おもに小学生を対象にした新事業「ウィズ・キッズ'24」の令和6年度開催に向けて、準備を進めた。
館外における鑑賞機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ●道内外の美術館からの作品借用希望に協力し、当館来館者以外にもコレクションの鑑賞機会を提供する。主な貸出予定は、道立帯広美術館「見えない音を描く」展に20点、道立釧路芸術館「かもめのももちゃん」と見るとCATS & DOGS」展に27点、道立旭川美術館「ころ・おどる・ものがたり」に52点を貸出したほか、本郷新記念札幌彫刻美術館「鈴木吾郎展」に2点、神田日勝記念美術館「幻の馬」展に3点、京都国立近代美術館ほか4館の全国巡回展「走泥社再考」展に1点の貸出しを行った。このほか知事公館、知事室に例年通り7点を貸出した。 	

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a) 設定の考え方		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価 成果・課題			総合評価
多様なニーズに応える展示会の開催	展示会の観覧者数(※展示会毎の内訳は下表のとおり)	(常)27,648 (特)391,879	(常)12,060 (特)140,640	(常)過去最高1日当たり人数×日数(特)主催者申出又は予算要求上の人数	(常)10,143 (特)121,402	(常)84.1% (特)86.3%	③	c	札幌市との共催により実現した札幌国際芸術祭では、観覧者目標を大きく上回り、成功裏に終了した。また、他の特別展においても、集客や満足度においてほぼ目標を達成できた。年間を通じて日本画、現代美術、アイヌアートなど多彩なジャンルを紹介したことで、様々な志向を持つ観客のニーズに応えることができた。	B	ウェブを活用した情報提供に努めるとともに、道民の多様なニーズや幅広い世代の関心に応えられるよう、国内外の優れた美術品の紹介はもとより、コレクションを活用した子どもから大人までが気軽に参加できる事業や、手で直接作品に触れて鑑賞体験を深める視覚障がい者も楽しめる展示会、さらには学芸員と作家の協働により北海道美術を読み直す企画など、引き続き多彩なジャンルの魅力あふれる展示会活動を実施する。
	観覧者の満足度	(常)88.7% (特)88.0%	(常)90.0% (特)93.3%	来館者アンケートによる過去5年間の最高値	(常)91.4% (特)85.9%	(常)101.6% (特)92.1%	②				
観覧者拡充のための工夫	観覧者に占めるリピーターの割合	(常)63.7% (特)71.9%	(常)72.5% (特)73.9%	過去5年間の最高値	(常)64.0% (特)73.8%	(常)88.3% (特)99.9%	②	b	関連事業として「トリック×イリュージョン」展ではワークショップ「手作りスリットアニメーション」を実施、AINU ART展では「あっちもこっちも面白い」と題し同時期開催の札幌国際芸術祭と連携して、両展担当の学芸員がそれぞれの展示会の見どころをリレー形式で紹介。このほか同展ではアイヌ刺繍によるコースター作りや、トンコリとムックリの演奏体験イベント、子どもを対象にアイヌ語の巨大カルタを楽しむイベントを行い、幅広い観客層の動員につなげた。		
	観覧者に占める児童生徒の割合	(常)8.3% (特)9.6%	(常)10.0% (特)10.0%	各展示会の児童生徒の見込割合	(常)13.1% (特)7.7%	(常)131.0% (特)77.0%	①				
	展示の企画構成やPR等の工夫[定性]	-	-	-	-	-	①				
館外における鑑賞機会の提供	館外における展示活動の状況[定性]	-	-	-	-	-	①	b	移動美術館を実施しなかったことで館外における展示活動は減ったが、今後も貸出やウェブ上での作品紹介等により、鑑賞機会の提供に努める。		

【展示会開催状況】

区分	展示会名	計 画				実 績				特記事項	
		会期	開催日数	観覧者見込数(うち児童生徒)	1日当たり観覧者数	会期	開催日数	観覧者見込数(うち児童生徒)	1日当たり観覧者数		
常設展	シャガール・イン・プリント/戦時下の北海道美術 ほか	4/1~9	8	1,608 (160)	201	4/1~9	8	1,507 (96)	188		
	友田コレクション/日本のガラス/新収蔵品展	4/22~6/11	44	8,844 (884)	201	4/22~6/11	44	7,489 (1,105)	170		
	北海道の美術(仮)/現代ガラスのオノマトペ ほか	3/23~31	8	1,608 (160)	201	3/23~31	8	1,147 (131)	143		
	常設展計	-	60	12,060 (1,206)	201	-	60	10,143 (1,332)	169		
特別展	館単独主催展	揺さぶる絵-変貌する日本画のイメージ	9/16~11/12	51	10,000 (1,000)	196	9/16~11/12	51	9,094 (470)	178	
	共催展	AINU ART-モレウのうた	1/13~3/10	50	10,000 (1,000)	200	1/13~3/10	50	9,556 (316)	191	
		札幌国際芸術祭	1/20~2/25	32	11,840 (1,184)	370	1/20~2/25	32	13,679 (2,123)	427	
	実行委員会展	足立美術館所蔵 近代日本画と北大路魯山人展	9/16~11/12	51	55,000 (5,500)	1,078	9/16~11/12	51	38,649 (707)	757	
	貸館展	サンリオ展	4/1~2	2	2,000 (200)	1,000	4/1~2	2	7,071 (1,291)	3,535	
		トリック×イリュージョン!	4/22~6/11	44	50,000 (5,000)	1,136	4/22~6/11	44	41,138 (5,570)	934	
		第90回記念独立展 北海道展	3/23~31	8	1,800 (180)	225	3/23~31	8	2,215 (165)	276	
	特別展計	-	238	140,640 (14,064)	591	-	238	121,402 (10,642)	510		
合 計	-	298	152,700 (15,270)	512	-	298	131,545 (11,974)	441			

R5年度 美術館評価調書

C 学習の場と情報提供の充実

近代美術館

【基本的運営方針】

コレクション、展示、調査研究に結びつけながら、個人の成長・年齢や個性に応じたラーニング・プログラムを企画し、実施します。特に鑑賞学習支援ツールとオンラインについて、効果的な活用を進めます。また、コレクションのデジタル・データ化や、ホームページとSNSの活用によって、発信する情報の魅力アップに取り組みます。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
教育普及活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●平成23年度から実施してきた「ぐるっと三館鑑賞ツアー」を、スマートフォンのアプリを利用したテキスト、音声、動画ガイドによる自由参加型のツアーへと変更し、時間、場所、参加人数等の制限なく参加可能な事業として新たに展開する。 ●設備修繕工事に伴うコレクション展の本数減少により、ミュージアム・トークの実施回数が例年より減る見込みだが、コレクションの展示も含んだ特別展において学芸員による「見どころ解説」の回数を増やすことで、道民の学習機会を確保する。 ●特別展に関連した外部研究者によるトーク、美術館の雰囲気を活かしたホールでのコンサート等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スマートフォンアプリ「ポケット学芸員」を用いて、当館内外の彫刻、知事公館内外の彫刻、絵画、三岸好太郎美術館の絵画あわせて9点について画像・テキスト・音声による作品解説を公開した。なお音声ガイドは北海道札幌北陵高等学校と連携し、同校放送局の生徒の協力により制作した。 ●ミュージアム・トークは、工事休館のため昨年度より3回減って12回となったが、代わりに学芸員によるトーク（講座、見どころ解説、ギャラリー・ツアー等）を18回実施し、昨年度の8回から10回増となった。 ●「トリック×イリュージョン!」「揺さぶる絵」等4つの特別展で外部講師による講演会を開催したほか、近美コレクションでも「現代ガラスのオノマトペ」の開催中に道内ガラス作家による講演会を行った。また、道銀文化財団との連携によるミュージアム・コンサートを2回実施した。
情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●設備修繕工事による休館中に、次回展覧会の出品作品や美術関連情報について、SNSを通じて積極的に発信する。 ●一般のインターネット利用者に向けた展覧会紹介動画「北海道リモート・ミュージアム」の新規コンテンツを作成する。 ●ARSコーナーで上映している「北海道リモート・ミュージアム」のアーカイブ動画について、最新動画を加えて内容を更新し、提供情報をいっそう充実させる。 ●コレクションのデータベースを着実に整備し、所蔵作品に関する基本情報を公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年間を通じて週2〜3回投稿するなど、積極的にSNSによる情報発信を行った。工事休館中においても次回展の見どころや学芸員おすすめの書籍等について投稿した。 ●近美コレクション「昭和のガラス工芸」「アートギャラリー北海道 小川原脩記念美術館展」並びに特別展「AINU ART—モレウのうた」において、「北海道リモート・ミュージアム」の動画を制作、公開した。 ●ARSコーナーで上映している「北海道リモート・ミュージアム」のアーカイブ動画について、2021年度以前の古いデータを削除し、2022年度から23年度に制作された最新の動画が見られるよう入れ替えを行った。 ●コレクションのデータベース整備について、日々の学芸業務で判明した軽微な修正を反映させることで精度を高めるとともに、令和5年度新収蔵品の登録を行った。また、日本の版画と日本画約600点については、作品の実物再確認と資料調査に基づきデータ内容の見直しを行った。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]		
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価		総合評価	
			設定の考え方								成果・課題
教育普及活動の充実	教育普及プログラムの実施件数	70件	32件	特別展開連4件×5本+近コレ関連10件+その他2件	60件	187.5%	①	b	●実施件数については、学芸員による解説事業を積極的に行った結果、大幅に伸びた。 ●参加人数については、2度にわたる計5ヶ月の工事休館により事業周知の不足が懸念されたが、HPやSNSを通しての積極的な情報発信により参加人数は目標値の80%を達成した。	B	●教育プログラムについては、今後も展覧会のチラシ、HP、SNS等を通じて、積極的な広報展開を進める。 ●HPによる情報発信は、引き続き利用者目線に立って迅速な更新に努めるとともに、必要に応じて仕様やシステムの改善を行う。SNSの投稿にあたっては、メディアの特質を理解した上で、適切な情報発信に努める。 ●「北海道リモート・ミュージアム」や所蔵作品データベースの情報更新を適宜行い、展覧会や所蔵作品の情報発信に引き続き取り組む。
	教育普及プログラムの参加者数	3,350人	2,920人	特別展開連1件あたり140人+近コレ関連1件あたり10人+その他20人	2,349人	80.4%	③				
	教育普及プログラムの企画・実施状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				
情報提供の充実	ARS、図書コーナーの利用件数	7,986件	4,495人	H30、R1、R4の1日あたりの平均利用者数29.0人×開館日数155日	3,521人	75.4%	④	c	●工事休館のため開館日数が減り、特に夏季の大型展がなかった影響から、ARSおよび図書コーナーの利用者(21人/日)やHPアクセス数が減少したが、HPを整備して音声ガイドの案内や、リモート・ミュージアム等のデジタルコンテンツに関するページを増設したことで、利用者の関心をより高めるような情報発信ができた。また、HP更新作業時に生じる不具合解消のためCMSの改修を行った。 ●SNSについては、計画的かつ積極的な発信を行うことで、投稿数で目標値を大幅に上回った。一方で、Xに批判的なコメントが数多く寄せられるなどの事案も発生したことから、適切な情報発信を行うため、発信内容のチェック体制を強化した。 ●「北海道リモート・ミュージアム」は計画した3件の動画を制作、公開することができ好評を得た。 ●コレクションに関するデータを整備し、データベース上で公開することで、一般の利用者や研究者がアクセスできる情報の質を向上させた。	B	
	利用しやすい図書・資料コーナーの整備	—	—	—	—	—	①				
	HPアクセス件数	977,098件	714,614件	リニューアル以降(R3/7/1~R5/3/31)の1日あたりのセッション(訪問数)1957.8件×366日	571,976件	80.0%	③				
	SNSの投稿数	255回	124回	フェイスブック、ツイッターとも週1回+AGH月間10回	273回	220.0%	①				
	リモートミュージアムの公開件数	5件	3件	昭和のガラス工芸、小川原脩記念美術館展、AINU ARTで制作	3件	100.0%	①				
	情報発信の工夫改善 [定性]	—	—	—	—	—	①				

R5年度 美術館評価調書

D 活動の基礎となる調査・研究の推進

近代美術館

【基本的運営方針】

美術及び美術館に関する調査研究を、これまでの蓄積と新たな知見の上に立って推進するとともに、学芸員の資質向上を目的とした研修を行うことにより、活動全般の信頼性や企画における創造性を向上させます。また、調査研究の成果を、様々な形で発信し社会に還元します。併せて、リニューアルに向けた活動、施設、運営等に関する調査研究を進めます。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
調査・研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●来年度以降開催が検討されている「高山寺展」や「三の丸尚蔵館展」及び再来年度以降の自主企画展、あるいは作品収集について、調査・研究を着実に進める。 ●コレクション研究を推進し、成果をわかりやすく示すため、「この一点を見てほしい。」では、研究と直結した展示を行う。リニューアルに向けて他館のリニューアル事例の情報収集や視察を進める。 ●新しいLED照明、展示ケースなど展示用具や設備について情報収集を行い、見やすさや作品保全機能の向上のための研究を進める。 ●主に新採用学芸員を対象とした研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度の近美コレクションをはじめ、次年度の「高山寺展」、「三の丸尚蔵館展」、「星の瞬間」展に関連し出品作品等の調査・研究を進めた。また収集作品については、掛川源一郎156点をはじめ片岡球子1点、富田幸衛1点、福田美蘭2点を調査し、R6年5月からの「新収蔵品展」で作品解説を付して展示予定。 ●「この1点を見てほしい。」を1回開催した。リニューアルに向けて情報収集を行うとともに、総務部・学芸部の職員が文化財・博物館課とともにワークショップを行い知見を深め、また、大阪・鳥取・福岡の美術館を視察した。 ●新しいLED照明についての情報収集を経て30基購入し、おもにガラス作品の展示に活用した。 ●新採用学芸員を対象とした研修を6月に実施した。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]		評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a) 設定の考え方	実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価(※定量指標がないため最高評価はb) 成果・課題		総合評価
調査・研究の推進	学芸員による調査・研究の報告や発表の状況 [定性]	-	-	-	-	①	b ●調査・研究においては、各学芸員が担当展覧会や所蔵品に関連した調査・研究を進め、「揺さぶる絵」「AINU ART」「札幌国際芸術祭2024」等では、関連図録においてもその成果を発表。「この一点を見てほしい。」では、所蔵品研究の成果を展示紹介した。また、R6年度の展覧会に向けても各学芸員が調査・研究に意欲的に取り組んでいる。 ●研修においては、新採用学芸員研修を実施し、道教委の学芸員としての基本的な心構えや専門知識・技能を習得する機会を設けた。	B	●引き続き、展覧会や所蔵品に関する調査研究をすすめ、その成果を展示や紀要等により公開する。
	学芸員の研修等の状況 [定性]	-	-	-	-	①			

R5年度 美術館評価調書

E 多様な主体との連携・協力による地域の活力向上

近代美術館

【基本的運営方針】

地域の文化活動や学校の教育活動と連携・協働することで、美術に対する関心を高め、美術館の利用促進を図り、地域のアートの活性化に寄与します。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
多様な機関との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> ●北海道美術館協会およびボランティアとの取り組みを継続し、図録や美術関連グッズの販売、ギャラリー・ツアー、アート・レファレンス・サービス、資料整理、美術講座など、きめ細やかで幅広い普及活動に協力する。 ●北海道の中核的美術館として、北海道美術館学芸員研究協議会等と協力して道内美術館のネットワークを強化する。 ●北海道内にある多様な美術館などが相互に連携し、本道全体がアートの舞台となることを目指す「アートギャラリー北海道」事業として、俱知安町の小川原脩記念美術館のコレクション展の実施、来年度以降の展示の企画、ネットワーク参加館への様々な協力などを行う。 ●アイヌ民族文化財団及び札幌国際芸術祭実行委員会との共催による展覧会を実施する。 ●札幌国際芸術祭のイニシアティブ・パートナーとなる企業と協力し、展覧会会場の造作における環境への配慮の向上に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●協会及びボランティアの日常的な活動に協力、助言を行ったほか、ARSコーナーにタブレット（コンピューター端末）を配置し、質問対応の利便性を向上させた。ボランティア資料部が整理する図書カードの収納場所が不足してきたため、カードを整理した。コロナ禍を経て再開したボランティアによる事業「アート・クラブ」「ジュニア・アート・クラブ」の実施方法について助言し、展示用具を貸与する等した。 ●第32回北海道美術館学芸員研究協議会の開催にあたり運営および会場の提供等に協力した。 ●「アートギャラリー北海道」事業として小川原脩記念美術館のコレクション展を開催するとともに、同館学芸員の出演や同館撮影を含む「北海道リモート・ミュージアム」（動画）を制作する等、連携してコレクションの周知に努めた。また、AGH月間では、SNSでの集中的な広報展開に加え、道内の主要個人作家美術館に原稿を依頼し、紹介パネル展を開催する等、活発な広報活動を展開した。 ●アイヌ民族文化財団及び札幌国際芸術祭実行委員会との共催で展覧会を開催した。 ●500m美術館専門委員会や道銀文化財団に協力し、地域の芸術文化振興および地域作家の顕彰に寄与した。 ●札幌交響楽団定期演奏会に際し、当館のコレクションからプログラムに掲載する画像を提供し、学芸員が作品解説を執筆した。
学校等の教育機関との連携・支援	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒の自主研修や職場体験の要望に応じた細やかな教育プログラムの提供や鑑賞学習支援ツールの貸出を行う。学校との連携を促進するため、利用案内チラシを配布して積極的な広報を行う。 ●実施2年目を迎えた「オンライン・アート教室」について、児童生徒の学習段階に合わせた効果的なプログラムを作成し、学校現場と連携して実施する。 ●道立図書館と連携し、特別展ごとに関連図書の閲覧コーナーを設け、来館者の学習意欲向上に資する。 ●学校教育における美術館活用を促すため、指導者研修を実施する。 ●道内外の大学からの要請により、博物館実習を実施する。 ●「学芸員インターンシップ制度」によって、学芸業務に携わる実務研修生を広く募集し、受け入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自主研修・職場体験を随時受け入れた。年度当初に利用案内チラシ（お役立ちシート）、8月には「鑑賞学習支援ツール活用の手引き」を配布・公開した。 ●「オンライン・アート教室」はZOOM等を用い、7校10件に対し、各校・各学級の実態、教員の要望に応じた授業を行った。 ●「トリック×イリュージョン!」「足立美術館展」「SIAF2024 1924-2024 FRAGILE/AINU ART—モレウのうた」の各展覧会開催時に道立図書館の閲覧コーナーを設け、来館者の閲覧に供した。 ●指導者研修を2回実施し、鑑賞学習支援ツールやオンライン・アート教室を実際に体験してもらった。 ●博物館実習では8校14名の参加を受け入れた。大学の見学実習も随時受け入れた。 ●「ポケット学芸員」用の音声ガイドを、北海道札幌北陵高等学校と連携し、同校放送局の生徒の協力のもと制作した。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]		
		前年度実績	目標値 (a)		実績値 (b)	達成率 (b/a)	指標の判定	項目評価 成果・課題		総合評価	
			設定の考え方								
多様な機関との連携・協力	地域の団体やイベント等と連携した取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	●地域や団体やイベントとの連携では、アイヌ民族文化財団及び札幌国際芸術祭実行委員会との共催により、地域文化に根ざした展覧会を年度内に2本開催し、併せて23,000人を超える来場者を迎え、成功裏に終了できた。また「揺さぶる絵」展では出版社との連携で展覧会図録を編集し、広く普及できた。 ●ボランティアとの連携・協力については、北海道美術館協会と共催で美術講座を開催して受講者からの好評を得たほか、ボランティア養成講座に協力したり、日常活動に助言を行ったりする等、積極的に連携・協力をを行い、美術館活動の活発化につなげた。	B	●引き続き外部団体等との連携や協働に取組み、良質な展覧会や事業の実現を目指す。 ●オンライン・アート教室においては、学校側の要望等を聞き取りながら、より良い内容となるよう努める。
	企業や団体等と連携したPR活動 [定性]	—	—	—	—	—	①				
	道内美術館等との連携・協力の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				
	ボランティアとの連携・協力の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				
学校等の教育機関との連携・支援	学校教育と連携した取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	c	●学校教育と連携した取組では、自主研修や職場体験を11件88名受け入れ、児童生徒に美術館活動への関心を深めてもらうことができた。 ●児童生徒向けの鑑賞教室では、オンライン・アート教室での撮影機材を見直し画質、音質を改善するとともに、学校現場のニーズを細やかに把握することで、各学校の児童生徒の状況に配慮した参加しやすい内容の授業を展開することができ好評を得た。特に聾学校においては、はじめて音声認識アプリ（UDトーク）を導入し、学芸員の発言をリアルタイムで字幕化することで、学校や生徒が積極的に参加することができた。 ●キャンパスパートナーシップの参加校が目標に満たないのは、工事休館により近美コレクションの期間が短かったことが原因と考えられるが、今後もこれまで同様に各学校に参加を働きかけていきたい。 ●指導者研修は鑑賞学習支援ツールやオンライン・アート教室等を体験できる内容へと刷新した結果、R5の鑑賞学習支援ツールの貸出件数が、R4の8件に対し15件に増加した。		
	児童生徒向け鑑賞教室（オンラインを含む）の実施件数	7件	10件	実施可能期間（8月～12月）に月当たり2校	9件	90.0%	②				
	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	1校	1校	R4実績と同数（近コレ開催日数R4:137日>R5:60日）	0校	0.0%	④				
	教員を対象とした研修の実施状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				

R5年度 美術館評価調書

F 安全で快適な滞在環境の提供

近代美術館

【基本的運営方針】

道立近代美術館を、くつろぎの空間としての魅力を向上させるよう環境の整備・充実に努めます。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
施設の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ●来館者が安全・安心に過ごせるよう、施設・設備の点検を実施し、計画的な工事の実施に努めるほか、必要な補修を速やかに行う。 ●前庭にある倒木の可能性のある樹木を伐採する等、自然環境を活かしながら、植栽の適切な維持管理に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●前年度より計画していた大規模な設備更新工事（空調設備・電気設備・エレベータ）、施設改修工事（屋上防水）を実施した。 ●施設・設備について、日常の点検・補修に加えて施設課技術職員による点検・研修会を実施し、必要箇所について補修工事を実施した。 ●前庭にある大木の樹木診断を行った。 ●道路にせり出し、危険な樹木・枝の一部について、伐採を実施した。
施設の快適性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●来館者アンケートの方法や内容を工夫し、より多くの方々から意見等を聞くことができるよう努めるとともに、アンケート結果を館内職員で共有し、ホスピタリティの向上に努める。また、アンケートに対する回答を定期的に掲示する。 ●カフェやミュージアム・ショップが利用者にとってより魅力あるものとなるよう、事業者と協働した取組について検討・実施する。 ●三岸好太郎美術館、知事公館を含むエリアを、魅力ある空間としてよりいっそう楽しんでもらえるよう、情報発信に努めるとともに、都心の緑の中にある美術館として、各館との連携事業や野外彫刻の適切な管理を行う。 ●ユニバーサルデザインの視点を取り入れながら、館内表示等の工夫を行う。 ●来館者の利便性向上のため、関係機関や事業者と連携しながら、キャッシュレスサービスの運用拡大に向けた検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケート用紙での回答のほかに、WEB上でアンケートに回答することができるQRコードを館内に掲示した。 ●実行委員会展共催者と協働し、期間限定で特設カフェの出店を行い、展覧会に関連したコーヒーやスイーツを提供した。 ●芸術週間（R5.11.1～7）にカフェスペースでお茶の無料サービスを実施した。 ●近代美術館、三岸好太郎美術館、知事公館を含むエリアを知ってもらうため、スタンプラリーや施設見学ツアーなどの遊歩イベントを実施した。 ●エリア近隣のカフェ等17店を掲載した「ART&EAT MAP」を作成し来館者に配付した。 ●体の不自由な方用の駐車場について、ユニバーサルデザインを取り入れた表示の改修工事を行った。 ●R5年度から新たに、キャッシュレスサービスが利用できる事業者を、6社追加した。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)	設定の考え方	実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価		総合評価
施設の適切な維持管理	施設の安全性確保のための必要な措置の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	●施設・設備の更新や点検・補修を行ったことにより、施設・設備の不具合が減少した。 ●危険樹木等の一部伐採により、来館者はもとより通行人の安全の確保につながった。 ●引き続き、老朽化が進んでいる設備等の計画的な更新や前庭植栽の適切な管理が必要である。	●来館者が安全・安心に過ごせるよう、施設・設備の点検を実施し、計画的な工事の実施に努めるほか、必要な補修を速やかに行う。 ●前庭にある落枝の可能性のある樹木の剪定、樹高の調整をするなど、自然環境を活かしながら、植栽の適切な維持管理に努める。
	誰もが安心して利用できる施設設備の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①			
施設の快適性の向上	鑑賞環境に対する満足度	—	87.9%	来館者アンケート「施設内外の環境への満足度」過去5年間の最高値	85.9%	97.7%	②	b	●館内にQRコードを掲示したことなどにより、アンケートの回答数が増加し、より多くの利用者のニーズを把握することができた。 ●来館者へのホスピタリティ向上のため、アンケート回答率を高める検討が必要である。 ●期間限定の特設カフェや芸術週間のお茶の無料サービスを実施することで、アンケートにおいても、好意的な意見が書かれるなど、カフェの重要性について改めて認識することができた。 ●カフェスペースは出店者がいない状況となっているため、カフェスペースの活用の検討が必要である。 ●キャッシュレスサービスの導入について、機器導入経費や手数料の負担等があるため、事業者が難色を示しているものと認識。	●来館者へのホスピタリティ向上のため、来館者アンケートにおいて、より多くの方から意見等を聴取できるよう、方法を工夫する。 ●ミュージアム・ショップが利用者にとってより魅力あるものとなるよう、事業者と協働した取組や情報発信について検討する。 ●現在、カフェスペースは出店者がいない状況ではあるが、来館者の増加やホスピタリティ向上の観点から、短期間での出店など活用方法を検討する。 ●来館者の利便性向上のため、関係機関や事業者と連携しながら、キャッシュレスサービスの運用拡大に向けた検討を行う。
	レストラン・喫茶に対する満足度	54.7%	62.9%	来館者アンケートによる過去5年間の最高値	57.5%	91.4%	②			
	ミュージアムショップに対する満足度	67.1%	69.8%	来館者アンケートによる過去5年間の最高値	68.5%	98.1%	②			
	ボランティアや事業者と協力してのサービス向上に向けた取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①			
	館内スタッフの対応に対する利用者満足度	77.9%	82.9%	来館者アンケートによる過去5年間の最高値	81.5%	98.3%	②			
	ホスピタリティ向上に向けた取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①			